



CASIO



THE
ORIGIN.
5600

ABSOLUTE TOUGHNESS

5600。その数字は、G-SHOCKにとって特別の意味を持つ。

それは、数千におよぶ歴代モデルのなかで、初号機のDNAを最も色濃く受け継ぐモデルにのみに与えられる称号。その象徴ともいえるスクエアデザインは、落としても壊れない時計をつくるという開発者の信念から生まれた、あくなき挑戦とたゆまぬ革新の証として、すべてのG-SHOCKの原点であり、すべてのG-SHOCKが目指す最終形ともいえる。決して揺らぐことのないタフネススピリット。35年の進化を経てもなお、変わることのない強さの原点がここにある。



STORY

BEHIND THE BIRTH OF G-SHOCK

**1983年、ファーストモデルDW-5000C誕生。
すべては、ここから始まった。**

G-SHOCKは、たったひとつの信念から生まれた。
絶対に壊れない時計をつくりたいー。
開発にあたり結成されたのがプロジェクトチーム・タフ。
性能試験のために試作されたプロトタイプの数はいくつ以上。
構造開発や部品改良に費やした歳月は約2年。
想像を絶する試行錯誤が繰り返された。
そして1983年、ついに完成したのが、
G-SHOCKのコアテクノロジーである耐衝撃構造だ。

1行に込められた思い

"UNBREAKABLE" WATCH

「落としても壊れない時計を作りたい」。社内会議に提出された企画書には、たった1行こう記されていた。書いたのは、当時、時計の外装設計を担当していた伊部菊雄。たまたま仕事中に落として壊れた時計を見て思いついた単純明快な発想だったという。時計は精密で華奢なもの。落とせば壊れるのが当たり前だった当時、タフというコンセプトは時代錯誤であり、型破りなものだった。しかし、その提案は受け入れられた。わずか3名からなるプロジェクトチーム・タフが結成され、新たな時計の開発がスタートした。





出口のないトンネル

HARD DAYS

常識を覆す発想を具現化するため、プロジェクトはすべてゼロベースで進められた。当初は、柔らかい素材で時計全体を覆えばよいと想定していたという。しかし、落下実験を行った結果、その考えは見事に打ち砕かれた。ケースの外側にどれだけ緩衝ゴムを貼っても壊れてしまう。しかも、緩衝材を貼れば貼るほどサイズも大きくなる。いつしか、実験サンプルの大きさはソフトボール大になっていた。

やがて、時計の心臓部を5つの緩衝材で保護する5段階衝撃吸収構造を考案し、サイズの問題は解決した。しかし、今度は電子部品の強度に問題が発生した。壊れた部品を強化すると、別の部品が壊れるという悪循環に悩まされた。部品改良した試作品を3階のトイレの窓から10m下の地面に投げ落とす。壊れた部品を分析する。部品の強度を上げ再検証する。想像を絶する試行錯誤の日々が続いた。

たどり着いた奇跡の瞬間

BREAKING THROUGH

開発はストップしたかに見えた。追い込まれた伊部は決断する。最後の意地として、1週間という期限を自らに課し、起きている時間のすべてを研究に費やす。それで駄目なら、会社を辞めるしかないとも思い詰めたという。しかし、なんの成果もないまま運命の日はやってきた。最終日、ふらりと会社の隣にある公園に足を踏み入れた彼が目にしたのは、ゴムボールで遊ぶ子どもの姿だった。

その光景に目を奪われた。あの中に時計を入れれば、強い衝撃にも耐えられる。まさに奇跡の瞬間だった。このアイデアが突破口となり、時計の心臓部であるモジュールを中空構造のケースの中で宙に浮かせるように配置するという、独自の構造が完成した。



原点にして究極のカタチ

"BIRTH OF G-SHOCK"

そして1983年、G-SHOCK初号機DW-5000Cは誕生した。その象徴ともいえるスクエアデザインは、一切の無駄を省き、ただひたすら耐衝撃性のみを追求した結果、生み出されたもの。これ以上はない究極の形とされ、現在に至るまで永遠のスタンダードとして受け継がれている。信念は結実する。あくなき探求心と、たゆまぬ努力によって、G-SHOCKの原点。そのタフネススピリットは、これからも色あせることはない。

CHALLENGE

FOR ABSOLUTE TOUGHNESS

構造、機能、デザイン、素材。すべてに妥協なくこだわる。
絶対強度を追求するG-SHOCKのあくなき挑戦。

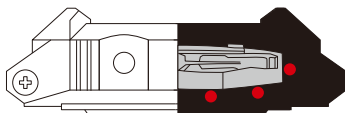
- 1 | STRUCTURE
- 2 | FUNCTION
- 3 | DESIGN
- 4 | QUALITY



1 | STRUCTURE 真の強さを生み出す、不変の構造、必然のデザイン。

中空構造

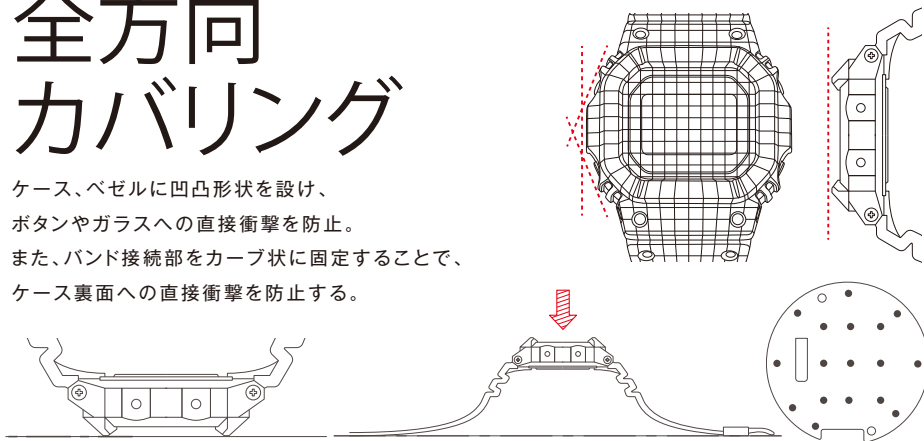
中空構造のケース内でモジュールを宙に浮かせるように配置し、外部からの衝撃を緩和。素材には、衝撃吸収材としての柔軟性と、外装材としての堅牢性を併せ持つウレタン樹脂を使用。



DW-5000C

全方向カバリング

ケース、ベゼルに凹凸形状を設け、ボタンやガラスへの直接衝撃を防止。また、バンド接続部をカーブ状に固定することで、ケース裏面への直接衝撃を防止する。



スクエアフォルム

耐衝撃構造に最適な形状として考案された角形フォルム。一切の無駄を排除した造形は、G-SHOCKの原点でありながら、最終形ともいえる完成度を誇る。



DW-5600E

構造強化

DW-5600E[1996]より、インナーケースを樹脂製に、裏蓋をパネルバックに変更することで、さらなる軽量化を実現。さらに、モジュール自体の耐衝撃化を図るなど、構造変更により耐衝撃性を強化。



2 | FUNCTION

あらゆる環境下での使用に応える実用性を追求。

CHALLENGE
FOR ABSOLUTE TOUGHNESS

1996



暗闇に強い。
LIGHT FUNCTIONS

ELバックライトの開発により、従来の豆電球からライト機能の実用性を向上。その後、腕を傾げるだけで自動点灯するオートライト、視認性の高いLEDライトへと進化。

※写真は DW-5600E-1

2002



光を力に。
SOLAR-POWERED

光を動力にかけ各種機能を安定駆動させるカシオ独自のソーラー充電システム。電池交換の手間を軽減する機能として、数多くのモデルに搭載。

※写真は G-5600E-1JF

2005



正しい時を刻む。
RADIO-CONTROLLED

標準電波を受信し時刻を自動修正する電波受信機能を搭載し、クォーツのみの時刻表示からその精度を大幅に向上。マルチバンド6モデルでは、世界6局の電波受信に対応。

※写真は GW-5600J-1JF

2008



多機能化の追求。
FUNCTIONS FOR SPORTS

サッカー対応ストップウォッチやタイドグラフ/ムーンデータなど、スポーツシーンで役立つ機能を搭載。タフネスウォッチの活動領域をさらに拡大。

※写真は GLX-5600-1JF

2008



寒さに負けない。
LOW TEMPERATURE RESISTANCE

ファーストモデルのタフネス性能をさらに追求し、-20℃の低温環境での動作に対応。雪山や氷上など、極寒地での活動をサポートする。

※写真は GLS-5600X-6JR

2012



実用性を向上。
BLUETOOTH®

Bluetooth®通信でスマートフォンと連携し、時刻を自動修正。さらに、アラーム、タイマーなどの各種設定をアプリ上で操作でき、時計操作不要のイージーオペレーションを実現。日常生活における実用性を向上。

※写真は GB-5600AA-1JF

3 | DESIGN

タフネスウォッチの新たなスタイルを創造。

CHALLENGE
FOR ABSOLUTE TOUGHNESS

EVOLUTION OF COLOR

[色彩]

1992年のカラー樹脂採用以来、混色成形やスケルトンなど、樹脂の特性を生かした様々なカラーリングを展開。さらには、高度な塗装・プリント技術を駆使した外装装飾も実現し、デザインの幅を大幅に拡大。

カラー樹脂
[DW-5600C-9B]



メタリック 塗装
[DW-5600FL-8JR]



混色成形
[G-5500JC-4JF]



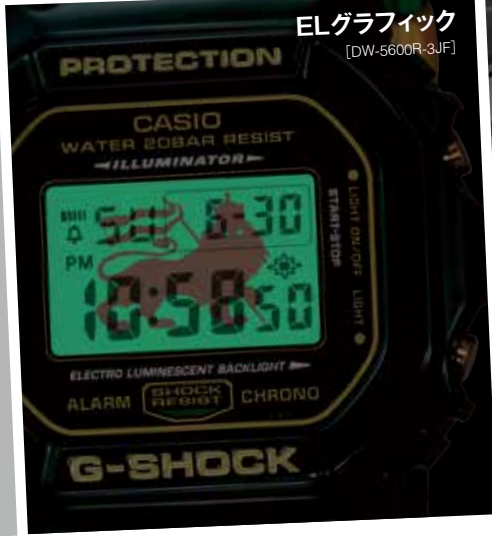
全面プリント
[GLX-5600F-4JF]



反転液晶
[DW-5600BM-1ZJF]



ELグラフィック
[DW-5600R-3JF]



レッド液晶
[DW-5000ML-1JF]



グリーン液晶
[G-5600GH-8JF]



EVOLUTION OF GRAPHICS

[表示]

夜間行動時にバックライトの光が目立たないようにする
反転液晶や、ELバックライト点灯時、ロゴやグラフィックなどが
浮かび上がるギミックなど、
デジタルウォッチとして表現力を追求。

4 | QUALITY

さらなる高みを目指して、こだわりのものづくりを追求。

CHALLENGE
FOR ABSOLUTE TOUGHNESS

EVOLUTION OF MATERIALS

〔素 材〕

バンド素材の主流であるウレタン樹脂のほか、さらなる強さの追求として様々な素材の開発に挑戦。

ハードな使用に耐えるだけでなく、装着性の向上やデザインの多様化にも貢献。



樹脂バンド

[DW-5000C-1A]

01

[1983]

クロスバンド

[DW-056USV-1]

02

[1999]

カーボンファイバー
インサートバンド

[GW-S5600-1]

03

[2010]

CORDURA® バンド

[DW-5600BBN-1]

04

[2016]

メタルバンド

[DW-5000D-8]

05

[2001]

メタルコア
バンド

[GW-5600BCJ-1]

06

[2005]

DLCコーティング
スクリューバック

[GW-5000-1]

07

[2009]

人工オパール
文字板

[GLS-5600KL-6]

08

[2010]

18金
ケース・バンド

[BASELWORLD 参考出品モデル]

09

[2015]

EVOLUTION OF VALUE

〔品 質〕

素材、仕上げに惜しみないこだわりを注ぎ込むことで、G-SHOCKが目指す強さという永遠の価値を表現。

コンセプトモデルをはじめ、他にはないクオリティを実現したモデルを多数発表。

CHRONICLE OF ORIGIN SERIES SINCE 1983

初号機誕生から35年。

不変のスクエアデザインを受け継ぎながら、

さらなる高みを目指して

進化を続ける G-SHOCK。

TO 1990S



DW-5000C-1A
記念すべき
ファーストモデル
1983



DW-5600C-1
5600シリーズ
初号機
1987



DW-5600E-1
ELバックライト
初搭載
1996



DW-0560USV-5T
クロスバンド
採用
1999



WW-5100C-1
-30℃耐低温
仕様
1983



DW-500C-1
BABY-Gの先駆け
1988



DW-5600C-9B
初のイエロー
カラーモデル
1992



DW-5600ED-4
バンパー
プロテクター
装備
1996

TO 2000S



DW-5000D-9JF
メタルバンド採用
2001



G-5600-1JF
タフソーラー
初搭載
2002



GW-5600J-1JF
初の
電波ソーラー化
2005



GW-5000-1JF
6局電波に対応
2009



DW-5600CF-3JF
迷彩カラー
モデル
2002



G-5600L-1JF
幅広いレザーバンド
採用
2004



DW-5600SF-2
6つのサブブ
ランドとコラボレ
ーションモデル
2006



DW-5600EH-7JR
「エリック・ヘイズ」
コラボレーション
モデル
2008

TO 2010S



GW-S5600-1JF
カーボンファイバ
ーインサートバンド
採用
2010



DW-5600PR-4JR
アーティスト
「バラ」コラボレ
ーションモデル
2011



GB-5600AA-1JF
スマートフォン
リンク搭載
2012



DW-05600BW-7JF
タイガーカモ
モデル
2015



GLS-5600KL-6JF
人工オパール
文字板搭載
2010



DW-5600LP-1JR
グラフィック
アーティスト
「Filip Pagowski」
デザインモデル
2012



GW-M5610SD-8JF
デザート
ページモデル
2013



DW-5600PM-1JF
マーブル
偏光塗装採用
2015



DW-5600E FEATURES

20気圧防水

雨天時や水辺などのハードな使用に対応。

報音フラッシュ機能

アラーム／時報／タイマーと連動し発光。

ボタンガード

ボタンへの直接衝撃を防ぐ形状。

ベゼル形状

突起形状でガラスを保護。

バンド形状

凹凸形状がバネの役割を果たし裏面をガード。

ショックレジストマーク

自由落下による衝撃に耐える強さをイメージ。初号機から受け継がれる機能アイコン。

FUNCTIONS

- ・ 1/100秒ストップウォッチ
- ・ タイマー / マルチアラーム
- ・ フルオートカレンダー
- ・ ELバックライト

